

■開催日時 平成 26 年 9 月 4 日（木）10 時～11 時 45 分

■開催場所 平塚市博物館 特別研究室

■会議出席者（敬称略）

会 長 宮川重信

副会長 石綿進一

委 員 椿田有希子、岡部盛敏、牧野久実

事務局 後藤社会教育部長、澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）

■傍聴者 なし

■会議の概要

1 開会

2 議事

（1）事業報告等

- ・夏期の事業報告
- ・「親子ほしぞらタイム」の実施結果について
- ・新種キノコの展示について

（2）今後の事業予定

（3）その他

- ・教育委員会評価点検会議について

3 閉会 ※ 会議終了後、夏期特別展見学

■議事および質疑

議題(1) 事業報告等（夏期の事業報告、親子ほしぞらタイムの実施結果、新種キノコの展示）

◆平成 26 年度夏期特別展「ぼくたちはひとりぼっち？」ほか夏期の開催事業について、事務局栗山学芸担当長が協議会説明資料により説明。

委 員 近所の子供やお母さんに聞きますと、プラネタリウムが結構人気があり、親も見たいし、子どもの学習にもなるということもあるのでしょうか、評判が良かったです。こうした観点でいろいろやっていただければと思います。

会 長 この事業の一覧を見ても、数も多くて幅広くされていますね。昨年と比べての入館者数ですか、各教室の参加人数が多かったというお話でしたが、その点についていかがでしょうか。

委 員 前回の協議会で、新しい方々をいかに呼び寄せるかという話をされていたと思いますが、今回行事の数が多いですが、新規の方の開拓をかなり意識されたということでしょうか。

事務局 新規の開拓だけではないのですが、新規の方が入りやすい、参加しやすいということを学芸員全員が念頭に置いております。これまでの学芸担当の話のなかでは、事前申込制というのがちょ

っと敷居が高いのでは、ということがありました。あと、ぶらっと博物館に来られた方が、その場で行事に参加できる形、自由参加という形を何とか作っていきたいということで、「星を見る会」のようにいつも自由参加のもののほかに、3館コラボレーションのなかで「もっと絵本を楽しもう」など、通りかかった方がそのまま絵本の読み聞かせを聞いているという状況もありました。なおかつ、時間も30分という設定で、とどまりやすい時間というのも考慮に入れています。そうした意味で何かしらの工夫を加えてゆくことは考えています。

委員 事前に人数が把握できないと現場の方は大変だと思うのですが、利用者側からすると、こういう試みはありがたいのではと思います。実感として、新しい方、今までいらっしゃらなかった方をつかむことにつながっているというものがありましたか。

事務局 参加者に見たことのある顔が揃う申込制と違い、自由参加にすると、面識のない、見たことがない方が何人もいらっしゃいます。ただ、その方々がリピーターとして、また次に来てくだされば効果があるかな、というところです。その点を今後注意して見ていきたいと思います。

事務局 天文の特別展に係る講演会で、今まで博物館で拝見したことがなかった方で、毎回いらしていた方がありました。ちょっとお話を伺う機会もあったのですが、博物館の天文分野の活動に興味をお持ちになったということで、また繰り返し来たいということでしたので、リピーターの獲得につながったという感触があります。

会長 充実した行事に参加された方から、また口コミで知り合いの方などに広がってゆく気配のようなものが見える気がしますけれど。参加人数のことからも良かったと思います。

◆プラネタリウム幼児向け投影「親子ほしぞらタイム」の実施結果について、事務局栗山学芸担当長が協議会説明資料により説明。

委員 最近テレビでも、子ども向けに宇宙とか星空とかをやっていますので、結構人気があると思うのですが、子どもは星座などに結びつけると興味が出てきますし、宣伝のキャッチフレーズなど、簡単な言葉で問いかけたりして工夫をすれば、またいっぱい見に来たり、興味が湧いたり、相乗効果が出てくるのではないかなと思います。

委員 幼児向けという趣旨で開催したのは今回が初めてですか。

事務局 幼児向け投影は前からしていますが、今年度、「親子ほしぞらタイム」の期間は親御さんも無料のサービスですよ、ということで記者発表して、知ってもらうきっかけにしたいと考えました。

委員 生物関係でも幼児向けの行事をやりますが、子どもは騒いだりする可能性があって大変ですよ。そのへんをどのようにクリアできたのかなと思います。実際にうまくできましたか。

事務局 今年度は、幸いに手が付けられないような状況はありませんでした。一般投影のなかで愚図ったり騒いだりとなりますとは、親御さんも気にされて一回外に出ないと居づらい感じがしてしまうのですが、「親子ほしぞらタイム」はまわりが皆一緒ですから、親御さんも安心して楽しんでいただける、ということになっていました。

委員 今後もしできればそういう催しを続けていきたいということですね。あと、入館者数の話ですが、

私からすればそんなに興味のないことなのですが、博物館はそういう評価をされる時があるので、こういう形で一遍で倍以上に跳ね上がると、次が大変かなと思うのですが。それをご承知のうえでなさっているのかなと思ひまして。博物館の宿命で、人数にいつも振り回されることになるので、そこをうまく、利用者さんも楽しんで、しかも博物館もやりやすい方法で、と思うのですが。急に倍になったと聞いて、これは大変かなと。そのへんは大丈夫ですか。

事務局 数字自体に振り回されるわけにはいかないのですが、75人入ったという数字は数字です。

事務局 プラネタリウムの観覧者数としては、平成23年に新しい投影機が入ってから、その新しさが魅力となって観覧者数が非常に増えました。全体の流れとしては、その新しさの魅力が薄れて、観覧者数は段々落ちていく傾向にあります。そのなかで、いろいろな利用法で、お客様に定着してプラネタリウムを利用していただく工夫をする必要があります。その一環として、小さなお子さん連れのお客様はこの日にご利用いただくといい、ある程度の棲み分けを試みて、そういう世代の方には一つ決まった利用の枠を作っていきたい。そういった考えでこの事業を起こしたわけです。ですので、人数的には下ってゆく傾向にありますので、ただいまのご質問のようなご心配については、大丈夫なのかなと思っています。変な言い方なのですが。

委員 プラネタリウムは中の席が決まっているものなので、中に入ってしまうと、扱いやすいと言えれば扱いやすいと思います。

事務局 この事業のきっかけになったのが、お子さんがうるさいという苦情をおっしゃる一般のお客様があったということがありました。より幼児向けと、一般向けとの種類があるということの周知を徹底することによって、両方のお客様に気持ち良くご利用いただくという方向を目指していきたいなど。少しでも話題性を得ることによって、そうした棲み分けの告知ができるのかなと。その手段として無料ということをやってみたといういきさつです。ですので子供向けの回では、うるさく騒いでも、中断するようなことがあっても、聞き取りにくいことがあっても、それは有り難い投影なんですよ、ということをご理解の上でご利用いただいているという次第です。

委員 利用者側からすれば、ありがたいものがたくさん盛り込まれていると思いますが、収支ということではいかがでしょうか。電気代一つとっても大変だと思うのですが。どこで収支をうまく合わせるのかなと。サービスはやればやるほどいいものですが、ただでさえ予算的に厳しいと思うので、大丈夫かなと。

事務局 単純に収支という意味では、博物館のプラネタリウム収入で施設の費用を回収しようという発想には立っていません。いただいている200円の観覧料で、リース料も電気代も出るような状況ではありませんので。社会教育施設ということで、入館料は無料でご自由にお使いいただく施設という設定ですが、プラネタリウムに関しては場を区切って、そこに入った方だけが観覧できるという性格もありますので、その分の負担を少しいただいて、その区切りという形での200円という設定をしております。もともと、これでペイするものではありません。歳入の面で多少の影響が出ていますが、全体的としては、ほとんど影響がないというふう考えています。

委員 まったく税金だけで運営していくというスタンスでも、このまま続けられそうな感じですか。  
事務局 たぶん苦しいのではないかという気がするのですが。

委員 その辺が悩ましいところで、ちょっと方向転換をしなければいけないとか、いろいろな悩みを抱えているところが多いと思うのですが。

事務局 先ほど施設の話をしました、今年度ぐらいまでは平塚市の場合はまだ、というところなのですが、近隣市の図書館などの社会教育施設の状況を見ますと、このまま受益者負担の考えがないままで行くと、施設の維持・メンテナンスの面で、やはり生き残っていけない状況です。バブルの時代と発想を少し変えていかないと、と思います。利用者が段々減っていくことに危機意識を持っています。

事務局 無料化という点ですが、今回、一つの周知の方法として採用したわけですが、これをサービスとして今後も継続するのか、それとも周知ができたから今後は有料でご利用いただくかという点については、これから検討していく課題だろうと思っています。

会長 今まで博物館でプラネタリウム以外に、特別展や何々教室などを有料でしたことはありますか。  
事務局 行事のなかで消耗品を使う場合、その実費をいただくことはあります。配布資料代や講師料などはいただいていません。

会長 人間の心理で、ここにもあるように、無料だから良かった、安かったから嬉しいという反面、有料だから、その価値を認めて入りたい、という心理もありますよね。無料だと、うーんまあ…ということもあって、むずかしいですね。全国的に市立博物館で有料というところはだいぶあるのですか。

事務局 入館料を取るところはかなりあると思います。行事参加費を取るところもかなり見受けられますが、金額は 300 円、500 円のレベルですから、行事で使う消耗品の実費として取っているのだろうという印象を受けます。入館料にしても、もともと博物館法では、地方公共団体の博物館は無料という原則が書いてありますので、入館料を取るのはあくまで例外規定で、原則から言えば、常設展などは地域の人々が見る権利がもともとあるはずなので、そこは慎重に考えたいと思います。

会長 先ほどのお話のように、料金を取ったからといって何かができるまではいかないですからね。

委員 いっぱい人が来るようになると、中には損得ばかり考えて、自分に知識が入って来るのだから、ということを考えない人がいるかもしれませんが、ただ、入館者が多くなると、資料で自分が知らなかったことをいろいろ勉強できるので、そういう観点からは良いことだと思うのですが。また、お金の面では、いろいろと特別企画展で出る本などの収入はどうなんですか。どっこいどっこいよりもマイナスになっているのですか。例えば、行事の内容を本にまとめて 1000 円で売るとすると、原価とはどうですか。

事務局 刊行物としては、印刷代の実費を割り返した金額ということになっていますので、旨味は無いです。価格設定自体がそうなので、全部、何百部と刷って、それを単価で、数で割って、という

形で出しています。全部完売しているわけではありませので、これに関しても持ち出しがほとんどです。

委員 ても、あの図録の本が出るのを期待している人も結構いるという話を聞きます。講義で聞いたけれど、忘れたからまた読み返すんだ、というようなことを良く聞きますよ。TVの影響だと思うのですが、NHKの『趣味 Do 楽』などの講座でテキストを直ぐ出しますよね。それと一緒にだと思っているのではないかと。

事務局 博物館という施設については基本的に教育施設ですので、国の博物館法の考え方でも、博物館を広く国民の方に、地方自治体ですと市民の方にご利用いただくことによって、その方々の知的素養が向上していくことが、国や自治体の発展に役に立つという考え方ですので、またそれが、お金持ちの方しかご利用になれないということでは、政策としても博物館の意義が違ってきてしまうと思います。平塚市博物館の場合は、リピーターの方にできるだけご利用いただきながら、我々の運営の力にもなっていていただくという理念もあって、無料ということで行っております。刊行物についても、決してそれで市の収入を上げていこうという趣旨ではなくて、もちろん、それが収入になる部分もありますが、原価という頒布価格の設定をしているわけです。そういうことでご理解いただきたいと思います。

会長 刊行物は永久というか、ずっと取ってありますよね。特別展から10年経ったから処分、というようなことではなく。私も博物館に行くとき良く購入するのですが、時代に関係なく、そのことを知りたいと思った時に、とても良いものですからね。こういうものは減価償却ということではなく、とても良いものだと思います。

◆「新種キノコの展示」について、事務局栗山学芸担当長が協議会説明資料により説明。

委員 この論文は牛島先生単独のお名前によるものなのですか。

事務局 4名の連名です。城川先生のお名前も入っていました。

委員 これは結構目立ちましたよね。良かったです。

委員 標本についてですが、先ほど館長さんにうかがったのですが、二つの標本があって、ホロタイプの標本が博物館に置いてあって、パラタイプの標本がほかの機関に置いてあるのですか。

事務局 鳥取大学の方に送ってあります。

委員 ふつう、もう少し個体数が多いと良いのですけれどね。この相模原市の仙洞寺山ですか。これはなかなか採れないものなのではないでしょうかね。

事務局 そのつもりで集めるとどのくらいでしょうか。たくさんあるのかもしれないと、城川先生はおっしゃっていましたが。

委員 なるべく標本はあちらこちらにばらまいた方が良いでしょうね。

## 議題(2) 今後の事業について

---

◆平成 26 年度秋期特別展「平塚の石仏」について、事務局栗山学芸担当長が協議会説明資料により説明。

会 長 お話を聞いただけでもわくわくするような内容ですね。これらの行事は自由参加ということですが、その場に来て坂口さんのお話なども聞けるということですか。

事務局 はい、そうです。

委 員 11 月 9 日の講座ですが、こういう形で博物館で活動されているグループの方に何人も入れ替わりでお話しいただくような試みは今までもされていたのですか。

事務局 例えば博物館文化祭を毎年開催していますが、その時のサークル活動の発表会では、それぞれサークル参加者の方に発表していただくということはやっています。ただ、特別展関連事業の時にこうした形で行うのはあまりないかと。ゼロではないかもしれませんが。今回は図録の中身も会員で分担して執筆をして、かなりの内容を会員の方で書いていらっしゃいます。ただ、文章を書き慣れているか、書き慣れていないか、というところがありますので、担当の浜野学芸員には手直しなどの大変さがあるようです。会員の方にかなりお任せして開催するということになります。

委 員 会員の方にとっては活動の集大成ということで励みや力になると思うので、素晴らしいことだと思います。

委 員 石仏というと難しそうですが、子どもでも、お地藏さんやお正月のどんど焼きや道祖神などは馴染みがあると思いますし、大人にしても、地域についていろいろ知ることができるので、宣伝をすれば結構来るのではないかと思います。博物館文化祭の石仏の展示に置いてある目録などは人気があって直ぐ無くなってしまいますので、関心のある人が多いんだなあと思っています。石仏を調べる会の会員の方々は 4~5 人のグループに分かれて、下調べなど一生懸命活動しています。

会 長 本のタイトルにあります「3058 の祈りと願い」というのは、今まで調べた石仏の数ということですか。

事務局 はい、石仏の数です。

会 長 あの本を見ると、石仏がどこにあって、何年にできて、どういう形で、というよりも、今回のタイトルに「祈りと願い」とあるので、石仏から、地域の人々の祈りや願いや希望などが、子どもにも大人にも分かるような方向での展示になるということですよ。

事務局 もちろん、そうしたことも想定するのですが、図録の中で分担執筆していくと、どうしても石仏の紹介が中心になってしまうところもあります。浜野学芸員としては、それだけではなくて、石仏にもっと興味を持ってもらおうという場合には、石仏のどういうところを見たらよいのかという基礎知識なども、展示や図録のなかに入れていったほうが面白くなるのでは、というような話はしています。

委 員 石仏は、昔から何世代も時代を重ねて信仰の対象だったので、今、現物が残っていると、やはり普通の人もこれは何だろうと関心を持つと思うので、先ほどのような視点を織り込んでい

くと良いと思います。

委員 これは、記者発表はしますか。

事務局 記者発表は近づきましたら開催の発表をしたいと思います。

委員 そうですね、前のキノコの新種の発見と同じようにね。内容は違いますが、同じように市民の方に根を広げていって、それをとくに今回は集大成したということですので、ぜひやっていただきたいと思います。

### 議題(3) その他

---

◆「教育委員会点検評価会議」について、事務局栗山学芸担当長が協議会説明資料により説明。続けて「博物館事業の指標設定のあり方」について、事務局澤村館長が協議会説明資料により報告と説明。

委員 プラネタリウム関連で、学芸員が小学校などに出向いていく事業ですが、平塚市内は照明でほとんど星が見えない状況だと思うのですが、どこか見える場所を企画して生徒を連れて行くのですか。

事務局 プラネタリウムに来ていただく時には、基本的に、星が全部見える形で星空を解説します。あるいは太陽と月の動きについては、プラネタリウムでは頭の上で三次元的に説明できます。そういう利用が多いです。で、学校や公民館に求められて出向く場合には、基本的に学校の校庭に望遠鏡を持って行って開催する形になります。

委員 望遠鏡ではほとんど惑星ですね。恒星はほとんど変わりがないので。

事務局 そうですね。望遠鏡で形が見える惑星、月が人気です。

事務局 小学生のようなお子さんが相手の場合は、形がはっきり見えるのが楽しみにつながりますので、惑星・月が人気があります。恒星についても色を比較したり、いろいろ楽しんでもらう方法や、観察の視点があります。天文の学芸員はいろいろ工夫していろいろ見てもらっています。また開催する場所も、空の暗い所や明るい所で、見て迫力がある所とそうでない所がありますので、場所によっても違います。

委員 行事の開催回数が日程的にも施設の限界だというお話がありましたが、そのなかでも、現状 40%を将来的に 45%、50%と上げていくということは、つまり、今、会員制行事で行っているものの一部の何%かを、非会員制行事、もしくは新規会員制行事にシフトしていくことになるのですか。

事務局 会員制行事として活動しているものは、そのまま会員制行事として続けていくと思います。今考えているのは、私の考古分野の場合、「考古学入門講座」を秋に講堂で2回シリーズで開いていますが、昨年まで事前の申し込み制にしていたのですが、今年から自由参加にしてみようかと思っています。単発的、スポット的に開催する行事で事前申込制にしていたものを、内容的に可能であれば、その場で参加できる自由参加という形にする、あるいは、自由参加で気軽に参加できるテーマのイベントを可能な範囲で新たに創出していく、そうした二つの方法があるかなと思っています。

委員 今まで会員制行事で中核となって調査・研究を担っていた方にはそのまま活動していただいて、それ以外で融通の利く部分で、新規の利用者を増やしていく、そういうことですね。分かりました。

委員 今、災害や異常気象などは人々の関心がある分野だと思うので、災害・防災の観点ではなく、純粹に博物館の観点で、地域の地形などについて、特別講演を入れていくと関心が出てくると思うのですが。

事務局 今後の事業予定で秋の特別展をご紹介しましたが、今年度最後にもう一つ春の特別展があります。そこで今準備を進めているのが「平塚周辺の自然災害」という特別展を計画しています。内容はまだ検討中ですが、地質分野と歴史分野が中心になって全分野に係る、という形で考えています。自然災害ということですから、地震だけではなく、多くの災害の形を含めた内容を盛り込む予定です。ただ、どうしても、地盤・地質の話というのが、家を建てて安全かというような土木工学・建築学的な話とは合致しないところがありますので、博物館ではお答えできない質問も来るのですが、今のところ、このような特別展の計画をしています。

◆事務局により次回日程の調整。次回日程は平成 27 年 3 月 20 日(金)10 時開催を予定。

以 上

## 当日配布資料

## 平成26年度第2回平塚市博物館協議会 次第

平成26年9月4日（木）

博物館特別研究室

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 事業報告等

- ・夏期の事業報告
- ・「親子ほしぞらタイム」の実施結果について
- ・新種キノコの展示について

#### (2) 今後の事業予定

#### (3) その他

- ・教育委員会評価点検会議について

### 3 閉会

※ 会議終了後、夏期特別展見学

以上

## 平成26年度 博物館 夏の行事報告

## ■夏期特別展「ぼくたちはひとりぼっち? ~地球の外に生命を探して」

●会期：7/19(土)～9/7(日)

## ●関連行事

○特別展展示解説(各1時間程度)	①	7/19(土)	15:30～	(参加 32名)
	②	8/5(火)	16:00～	(参加 15名)
	③	8/8(金)	16:00～	(参加 13名)
	④	8/23(土)	15:00～	(参加 6名)

## ○連続講座「アストロバイオロジー入門」

第1回「アストロバイオロジーってなんだ？」	7/27(日)	15:30～17:00	(参加 12名)
第2回「太陽系に生命を探る」	8/2(土)	15:30～17:00	(参加 14名)
第3回「太陽系外に惑星を探す」	8/3(日)	15:30～17:00	(参加 33名)

## ○講演会「アルマ望遠鏡で見つめる星と惑星の誕生」

講師：平松正顕 氏(国立天文台) 8/16(土) 15:30～17:00 (参加 45名)

## ○講演会「すばる望遠鏡やTMTが挑む系外惑星」

講師：成田憲保 氏(国立天文台) 8/24(日) 15:30～17:00 (参加 50名)

## ○講演会「紙と鉛筆とコンピュータで探る惑星の作り方」

講師：武藤恭之 氏(工学院大学) 8/30(土) 15:30～17:00 (参加 30名)

○体験学習「DNAを取り出そう」	①	7/29(火)	13:30～15:30	(参加 34名)
	②	8/15(金)	13:30～15:30	(参加 32名)

## ■プラネタリウム投影

○一般向け番組「太陽と星の動き」	7/13(日)までの土・日
○一般向け番組「バンデカンパの夢」	7/19(土)～8/31(日)までの土・日
○幼児向け投影「ちきゅうをさがせ」	7/12(土)、8/9(土)、8/23(土)
○「星空と音楽のタベ」	7/20(日)、8/17(日)

## ■3館コラボレーション行事(博物館・美術館・図書館)

○スタンプラリー	7/19(土)～8/31(日)
○企画展「絵本で読む宇宙」	7/24(木)～8/31(日)
○関連行事「もっと天文絵本を楽しもう」	7/24、7/31、8/7、8/14、8/21、8/28の各木曜日、 13:00～13:30

## ■イブニングミュージアムウィーク 8/5(火)～ 8/10(日) (開館時間の延長とイベントの開催)

8/5(火)	考古	飛鳥びとの宇宙	(参加 19名)
8/6(水)	生物	コウモリ声を聞こう！ー博物館でコウモリ観察ー	(参加 13名)
8/7(木)	民俗	太陽と星の昔ばなしと紙芝居	(参加 22名)
8/8(金)	天文	いろいろな虹を見てみようー光を虹に分ける道具・分光器を工作！ー	(参加 17名)
8/9(土)	地質	生命の誕生と絶滅ー宇宙と地球の中で生命を考えるー	(参加 49名)
講師：藤岡換太郎 氏(神奈川大学)			
ファシリテーター：萱場うい子 氏(海洋研究開発機構)			
8/10(日)	歴史	天道・天命・人道ー二宮尊徳の思想を考えるー	(参加 11名)
プラネタリウム特別投影「エターナル・リターン」 8/6(水)、7(木)、9(土)、10(日)			

## ■各種行事

○自然観察入門講座「貝化石を調べよう」	7/24(木)	9:00～15:00	(参加 33名)
○体験学習「縄文人になろう」	7/27(日)	10:00～16:00	(参加 4名)
○自然教室	7/27(日)	10:00～12:00	(参加 10名)
「身近な自然の調べ方～セミのぬけがら&植物～」			
○体験学習「地形模型を作ろう」	8/20(水) 21(木)	9:00～16:00	(参加 26名)
○記念講演会「きのこの話 ～新種ってなあに？」	8/31(日)	13:00～15:00	(参加 43名)
講師：牛島秀爾 氏(鳥取大学)、城川四郎 氏(神奈川キノコの会)			
○雑貨団シアトリカル・プラネタリウム	8/29(金)	14:30～	(参加 54名)
Vol.30「ディスカバー！」		18:30～	(参加 39名)
○ろばたばなし	7/20(日)	13:20 15:00	(参加 11名)
	8/17(日)	13:20 15:00	(参加 25名)
○夏の自然観察さんぽ会	8/2(土)	13:10～15:40	(参加 6名)

## ■星を見る会

「土星と夏の星を見よう」	7/24(木)	19:00～20:30	(参加 102名)
「七夕の星を見よう」	8/2(土)	19:00～20:30	(参加 73名)
「夏の星を見よう」	8/21(木)	19:00～20:30	(参加 152名)

## 親子星空タイム実施結果

## ■ 概要

5月10日(土)から7月12日(土)までの毎週土曜日(6月7日を除く)に実施したプラネタリウム幼児投影「ちきゅうをさがせ」(未就学児向け)を「親子ほしぞらタイム」と銘打って、小学生以下のお子さんをお連れのお母さんお父さんの観覧料を無料とした。

## ■ 観覧者の動向

		5月	6月	7月	合計	
投影回数		4	3	2	9	
観覧者数	大人	89	117	81	287	
		対象者	67	102	69	238
		75.3%	87.2%	85.2%	82.9%	
	子ども	81	110	69	260	
		対象者	67	110	64	241
		82.7%	100.0%	92.8%	92.7%	
			170	227	150	547
	対象者		134	212	133	479
	78.8%	93.4%	88.7%	87.6%		

H26年度				H25年度			
月	日	曜	観覧者数	月	日	曜	観覧者数
5	10	土	32	5	11	土	11
	17	土	57		18	土	19
	24	土	41		25	土	7
	31	土	40	6	1	土	26
6	14	土	75		15	土	27
	21	土	77		22	土	59
	28	土	75	29	土	19	
7	5	土	75	7	6	土	41
	12	土	75		13	土	31
合計	547			合計	240		

## ■ 観覧者の感想（アンケート自由意見）

- ・ 子供と一緒に楽しめるプログラムだったので見に来ました。平塚から見える空が見られて興味深かったです。またぜひ足を運びたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 家族みんなで楽しめる内容でした。ありがとうございました。星座に興味があるので、星座の話を書きたかった。
- ・ ちょっと長い。はじめの解説がとてもよかった。身近な平塚の空だったことで楽しくみれ、今後子どもと星空をたのしみに見れます。またきたいです。
- ・ 幼児向けの今回の企画大変楽しく勉強になりました。落ち着かない子供でも参加できたのでありがたかったです。年間を通して実施して欲しいです。（期間限定ではなく）
- ・ とても分かりやすくお話しの方もユーモアがあり楽しかったです。5才と2才だったのでもう少し短いと見やすいです。また伺いたいです。
- ・ うちゅうなかはなんですか。1才10か月でも楽しめた！！ たのしかった。
- ・ 今日の子供向け企画は非常によいと思う。
- ・ 幼児向けのプログラムを増やしてもらえると家族みなで来られて良いと思います。
- ・ 子供と一緒に楽しめて良かった。
- ・ 親も無料で嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・ 平日なども、未しゅう学児童が入れるような、このようなイベントを有料でもいいからもっと行って欲しい。
- ・ 星座がいっぱいあってすごかった。また来たいです。
- ・ また来たいと思いました。ありがとうございました。
- ・ いつもどうもありがとうございます。土曜に来るといつも絶望の上星空に助けられますホント。分かりやすい解説ありがとうございました。寒い・・・と思ったら気づいてくれて切ってくれてありがとう。
- ・ 音が小さいです。マイクも映画も聞きづらかったです。もう少し音量を上げた方がいいと思います。
- ・ 幼児にはちょうど良かったです。親も楽しかったです。
- ・ 楽しかった。
- ・ もっと楽しい感じにしてほしい。
- ・ ありがとうございました。こういう企画が無料であるのはとても嬉しいです。はて、もうすぐ夏休みだから子供向けなのは。でも赤ちゃんとかOK1っていうのはイイね。私が小さい頃そんなの少なくてプラネタリウムデビューは小学生だったよ！今時の子供はみんな早いんだなー。楽しかったですよ。あ、そちらの常連の友人は本当に地道に博物館とプラネタリウムをCMして回ってるので色んな意味で凄いけど。
- ・ 親子で楽しめる、このような企画はとてうれしいです。平塚の七夕が登場し、楽しかったし身近に感じました。子どもわかりやすくよかったです。

平成26年5月2日

平塚市

担当 博物館学芸担当 塚田、藤井

電話 0463-33-5111

## 「親子ほしぞらタイム」

### －期間中は幼児向け投影が親子無料－

5月10日（土）からプラネタリウム幼児向け投影「ちきゅうをさがせ」がはじまります。7月12日（土）までの毎週土曜日（6月7日を除く）の幼児向け投影は、今年度初めて、「親子ほしぞらタイム」と銘打って小学生以下のお子さんをお連れのお母さんお父さんの観覧料を無料とします（18歳未満はすべての投影が無料です）。幼児向け投影はお話したり泣いてしまったりしても大丈夫です。ぜひこの機会に、親子でプラネタリウムを楽しんでみませんか？

実施日時 5月10日（土）～7月12日（土）の幼児投影（11時～11時50分）  
を対象とします（平成26年度）

5月10日、5月17日、5月24日、5月31日、6月14日、  
6月21日、6月28日、7月5日、7月12日 の全9回

会場 平塚市博物館 3階プラネタリウム室（平塚市浅間町12-41）

実施内容 小学生以下のこどもに同伴する保護者の観覧料を無料とします。  
小学生以下のこども1名につき父母2名までを無料とします（祖父母は適用外です）。

投影内容 幼児番組「ちきゅうをさがせ」（主に未就学児～小学校低学年向け内容）  
宇宙人科学者が惑星の観測中に、太陽の前を横切る惑星を発見し、地球を探しに来る物語。太陽系の惑星や七夕の話が登場します。その日の星空解説も行います。

<あらすじ>

ある日、ポコポコ星の科学者が惑星を観測していると、太陽という星の前を惑星が横切るのを見つめます。そして、太陽系の地球という星を探しに出発！  
はたして地球は見つかるのでしょうか？

添付資料 ポスター（別添）

番組内に登場するイラストの提供は可能です。

期間限定!

# 親子ほしぞらタイム

～小学生以下のお子さんとご一緒のお母さんお父さんの

幼児向け投影観覧料が無料に!!～

5月10日(土)～7月12日(土)の期間中、毎週土曜日の午前11時の回は、プラネタリウムで幼児向け番組「ちきゅうをさがせ」を投影します。ぜひ多くのお子さんたちにプラネタリウムを見てほしい!そしてお母さんお父さんにもいっしょに楽しんでほしい!という思いから、小学生以下のお子さんにご一緒に幼児向け投影をご覧になるお母さんお父さんの観覧料を無料にする「親子ほしぞらタイム」をはじめました。幼児向け投影では「お子さんが泣いてしまうかも…」「騒がしくしてしまうかも…」という心配はいりません☆ぜひこの機会に、親子でプラネタリウムを楽しんでください!



**対象日: 5月10日、17日、24日、31日、**

**6月14日、21日、28日、7月5日、12日**

**それぞれ11時の回**

<投影番組> 「ちきゅうをさがせ」

太陽のまわりをまわる惑星をさがしにきたポコポコ星の3人。太陽系の惑星たちや探査機に出会いながら地球をさがします。さあ、地球は見つかるでしょうか? (小学校低学年以下対象)



平成26年7月9日

平塚市博物館

担当 学芸担当 栗山

電話 0463-33-5111

## 博物館のきのこ標本が新種に！

### アマチュアの活動実る！

平塚市博物館に標本として保管されていたきのこが新種であることが、このほど明らかになりました。日本菌学会の学術誌 MYCOSCIENCE（日本菌学会英文誌）オンライン版に鳥取大学助教の牛島秀爾氏らの論文が5月27日、公開され、この新種はトゲミフチドリツエタケ (*Dactylosporina brunneomarginata*) と名付けられました。論文によると、*Dactylosporina* 属の正式な記録は、日本だけでなくアジアで初めてです。

新種の発見で重要な役割を果たしたのは、アマチュアのキノコ研究会、神奈川キノコの会が採集し平塚市博物館に保管されていた2つの標本です。このうち1999年に相模原市仙洞寺山で採集した標本が、ホロタイプ（正基準標本）に指定されました。ホロタイプは学術上きわめて重要な標本で、平塚市博物館で初めてのホロタイプです。

#### 神奈川キノコの会

アマチュアのきのこ研究会として1978年発足。きのこに興味を持つ人なら誰でも入会することができ、現在、会員数約250人。

調査・研究の結果を残し、分類学研究の学術的な資料とするため、1990年より平塚市博物館と協力し、同会が収集・作成したきのこの標本を市博物館で保管することにしています。神奈川県を中心に蓄積してきました標本には、学術的に価値の高い標本が多く含まれています。

#### 経緯

1995年 神奈川キノコの会がツエタケ（トゲミフチドリツエタケ）の標本を採集。

1997年 神奈川キノコの会が収集した7年間の標本が、「平塚市博物館資料46 キノコ類標本目録」として発行される。

1999年 神奈川キノコの会がツエタケ（トゲミフチドリツエタケ）の標本を採集する。

2012年 89年に鳥取で採集された標本を基に、ツエタケ類の研究を進める鳥取大学の牛島氏が、平塚市博物館にあるきのこ標本に注目し、標本の調査に訪れる。

2013年 平塚市博物館の保管するツエタケ類標本の中に未記載の種類があるため、新種として発表する論文を日本菌学会の学術誌 MYCOSCIENCE に投稿（2014年1月、受理）。

2014年 論文（オンライン版）が公開される。

## 展示・講演会

ホロタイプ（正基準標本）の展示

7月10日（木）～9月15日（祝） 博物館2階展示室

講演会「きのこの話～新種ってなあに？」

8月31日（日）13時～15時 平塚市博物館講堂（定員50名 当日先着順）。

牛島秀爾氏（論文著者・鳥取大学助教）

城川四郎氏（神奈川キノコの会会長）

## トゲミフチドリツエタケ

胞子に突起があり、ひだに茶色いふちどりがあるのが特徴のツエタケの1種です。



トゲミフチドリツエタケのホロタイプ



トゲミフチドリツエタケの生体

（標本とは別個体、2013年10月16日相模原市）



名前の由来になったひだの茶色いふちどり

### 牛島秀爾（うじましゅうじ）氏の（鳥取大学助教）コメント

まだまだ日本には、良くわからないきのこが沢山、しかも身近に存在しています。そのような種類を明らかにするには、多くの標本を収集・観察して、特徴などのデータを蓄積しておく必要があります。しかしこれは、1人で行うには途方もない時間のかかる仕事です。平塚市博物館には、幸い多くのきのこ標本が、城川氏をはじめとする神奈川キノコの会の方々や市民の方々の手によって長年収集・保存され、きのこ目録が作成されておりました。このような活動は、きのこだけでなく生物を後々科学的に認識するうえで非常に重要なことであると感じました。つまり、今回多くの標本とデータが蓄積されていたことで、不明種を分類学的に新種と認めることができたものと思います。まだまだ残された標本の中には、貴重な種類が存在するかもしれません。今後もこのような活動を続けていただきたいと願います。

### 澤村泰彦博物館館長のコメント

今回のことは、生涯学習活動で得られたものが、アマチュア研究者と博物館が共に活動していくことで、生物多様性を解明する分類学的な研究に反映されたと考えています。神奈川キノコの会と平塚市博物館の20年以上にわたる活動が実を結んだ1つの成果と言うことができ、地域のアマチュア研究者と地域博物館の可能性を示すものです。

### 新種の記載と標本について

未記載種を新種として記載するためには、国際的な命名規約に則って、論文として発表する必要があります。生物の種にはそれぞれ学名が与えられており、学名のない種のことを未記載種（新種）と呼びます。学名は、命名規約に基づいて与えられ、必ず基準となる標本（ホロタイプ・正基準標本）が必要です。タイプ標本（ホロタイプを含む新種の記載に伴う指定された標本群）は、その種が存在する確かな証拠であるとともに、将来その種に疑問が出た際に使用する重要な研究材料でもあります。

新種の記載は分類学的研究の始まりにすぎず、研究が進んだとき、ある種が別の種と統合されることはよくあります（統合された場合、古い方の種が残ります）。また、一度統合された種が再度分けられることもあります。こういった種の再検討が可能なのは、タイプ標本が世界各地の博物館や標本庫に残されているからです。

和名（慣用名）があっても、学名がない場合は学名を与える研究をする必要があります。今回のトゲミフチドリツエタケが他のツエタケ類と違うことは、神奈川キノコの会会長の城川四郎氏によって指摘されていました。トゲミフチドリツエタケのように、存在は知られているものの、学名のない生物は数多く存在します。この度の牛島氏らの研究によって、新種として、科学的に正式な名前（学名）が与えられることになりました。

きのこは他の生物に比べて、未記載の種類が特に多いのが現状です。その理由として、きのこに関心を持つ人や愛好者は少なくないものの、標本の作製・保存が容易ではないために標本が残らず、他の動植物と違い、アマチュア研究者による多様性研究のベースアップが難しいという状況があります。正式に学名が与えられない状況が、きのこ類の同定を難しくし、庭先で採集されるきのこでさえ図鑑で名前が付けられないことがあります。

## 平塚市博物館 平成26年度秋期特別展「平塚の石仏—3058の祈りと願い—」 開催要項

会 期： 平成26年10月4日（土）～11月30日（日）

開館時間： 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

10/21～10/26はイブニングミュージアム期間につき、午後7時まで開館  
（入館は6時30分まで）

休館日： 10/6, 14, 20, 27, 11/4, 10, 17

会 場： 平塚市博物館特別展示室

### 主 旨

本市の石造物調査は、30年以上にわたり、博物館の石仏を調べる会が行ってきました。会でくまなく調べ上げ、記録した石造物の数は3,058基にのぼります。その成果物である目録集『平塚の石仏』改訂版全10冊がこの秋に完結します。これを契機に開催する本特別展では、市内の主な石造物を写真パネルで紹介するほか、実物の石仏や講の掛軸などを展示し、3,058基の石造物に込められた先人の祈りと願いの心を探ります。また、近年は痛みの激しい石造物や撤去された石造物も目に付くことから、石仏が身近にある大切な文化財であることを知ってもらう機会にしたいと考えます。

### 展 示

I 石仏の造立傾向 II 仏教伝来の石仏 III 民間信仰の石仏 IV 寺社の石造物 V 近現代の石造物

\*石仏年表 \*VTRコーナー \*石仏を調べる会と『平塚の石仏』の歩み

### 関連行事

#### ○記念講演会

10月12日（日） 講師：坂口和子氏（日本石仏協会会長）「石仏への誘（いざな）い」

11月16日（日） 講師：小川直之氏（國學院大学教授）「石仏調査からわかること」

\*時間：13:30～15:30 会場：講堂 参加自由

#### ○講座「平塚の石仏を語る」

11月9日（日） 13:30～16:00 講堂 参加自由

石仏を調べる会の会員および担当学芸員が平塚市の主な石仏について語ります。

13:30 開会挨拶、石仏を調べる会のあらし

13:40 石仏の見方・楽しみ方（中森）

14:00 データベースから見た平塚の石仏（関根）

14:20 お地蔵さんのご利益と岩船地蔵（高梨）

14:40 休憩

14:50 平塚の庚申塔（露木）

15:10 平塚の道祖神（浜野）

15:30 徳本行者とその名号塔（妹尾）

15:50 質疑応答

○石仏見学会

石仏を調べる会の会員が市内の主な石仏を案内・解説します。

①「須賀の石仏」

10月18日(土) 9:30~15:00 場所: 札幌町、千石河岸、高浜台

往復はがきで10月9日(木)までに申し込む 定員20名 雨天時は10/25に順延

②「大山道周辺の石仏」

11月23日(日) 9:30~15:00 場所: 南原、中原、豊田

往復はがきで11月13日(木)までに申し込む 定員20名 雨天時11/30に順延

○展示解説

10/26(日)、11/1(土)、11/29(土) 13:00~13:50 参加自由

○連続講話「石との語らい」

特別展にちなみ「石」をテーマに学芸員が連夜お話をします。

10月21日(火) 街の中の石材の利用

10月22日(水) 石とコケー景色を彩る小さな緑ー

10月23日(木) 石の遺跡ーグーグルアースの旅ー

10月24日(金) 3058基の石仏年表

10月25日(土) 平塚の石仏の石工と石材流通

10月26日(日) 太陽系のロゼッタストーン

時間: 午後5時30分~6時30分

会場: 講堂(10月26日のみプラネタリウム室)

参加: 自由

印刷物

図録A4判64頁オールカラー1,000部、ポスター250部、リーフレット2,000部

(事務担当は博物館学芸担当 浜野)  
〒254-0041 平塚市浅間町12-41 平塚市博物館  
TEL 0463-33-5111 Fax 0463-31-3949

平成26年度 教育委員会の点検・評価

担当課：博物館

重点項目	重点項目3 生涯学習施設の総合的な活用	番号	3-14
事業名	プラネタリウム学習投影事業		
事業概要	学校の教室では教え方が難しい星の動き、月の満ち欠け、太陽の季節変化などを自在に表現することができるプラネタリウム投影を通して、学習の理解を深め、宇宙や天文への興味・関心を高めたり理科好きな子どもを増やすことにつなげます。		
主な行動目標	学習投影は小・中学校の学習内容にあわせ、学校が希望する時期に実施します。 ※目標値はプラネタリウムの学習投影の回数		
平成25年度 目標値	平成25年度 実績値	平成26年度 目標値	
84回	102回	85回	
指標評価	当初予算額	— 千円	執行額 — 千円
○	予算現額	— 千円	執行率 — %
<b>1 平成25年度の実績</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の投影は60回（3,979名 引率者含む）</li> <li>幼稚園保育園の投影は42回（2,306名 引率者含む）</li> </ul>			
<b>2 担当課の評価（成果）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の学習において、宇宙空間の三次元的な理解を促すことができました。</li> <li>宇宙・天体・科学に対する関心や興味を高めることができ、プラネタリウムや星を見る会などへの継続的な参加のきっかけとなっています（アンケート結果からの分析）。</li> </ul> <b>特記事項</b> （創意工夫、チャレンジした点等） <ul style="list-style-type: none"> <li>事前の調査票を活用し、学校での学習過程との整合を図っています。</li> </ul>			
<b>3 課題・今後の方向性</b> （可能ならばH22～H25の前期4年間を振り返り、H27～H31の後期5年間を見据えたコメントをお願いします。） <ul style="list-style-type: none"> <li>H22年度からH25年度の投影回数は、77、104、109、102で、目標を大きく上回る需要がありました。</li> <li>学習投影については指導要領や学校のカリキュラムのほか、校外学習が可能な回数など学校の事情に左右される部分が多いため、できる限り学校の状況に合致できるよう綿密な連携が求められます。</li> </ul>			

## ●アドバイザーからの意見

- 学校の学習課程に合わせて、開催時期を合わせてもらえるのはありがたい。幼小中ごとにプログラムも用意されているのもありがたい。時々、またプログラムを変更してもらえるとよい。
- 回数的に子どもが理解するには少ないので、星空が見たくなるような季節ごとのプログラムをつくり、何回も見せるべき。学校向けとは別に、子どもや親を集めるプラネタリウム事業を展開していると思うが、もっと周知活動をするべき。
- 学校への出前講座（星を見る会）などつながるとよい。

## ●教育委員からの意見

- 目標値を大きく上回る投影回数があり、学校の需要に十分こたえることができている。
- 各校の授業の進捗に応じた内容で投影するなど、その丁寧な対応は評価に値する。

## ●意見を受けて事業担当課の見解

- 事前調査書等を活用し、投影内容に反映している。今後も、授業の進捗や行事のスケジュール等、利用される団体の状況把握に努め、ニーズに合わせた内容を提供したい。また、投影現場での生徒たちの反応も大切にしていきたい。
- 学校での団体観覧については、カリキュラムや他の学校行事スケジュールの関係で、来館できる回数には限度があると想像するので、学習課程の中でのプラネタリウムの位置付けなど、事前のやりとりや調査票の活用によって、限られた学習機会を有効に生かしていきたい。
- プラネタリウムは土、日曜日にも一般向けに実施しており、児童の学習意欲に応じ個々に利用していただくことができる。幼児向け投影も含め、プラネタリウム事業全体のPRに努め、他の時期の観覧を促進していきたい。
- 学校からの依頼に基づいて、現地に学芸員を派遣し星の観察を実施しており、今後も可能な範囲で要望に応えていきたい。
- 目標数値の妥当性については、主体的な要素ばかりでなく、利用団体の生徒数の増減も実施回数の増減要因になることから、当面推移を見守りたい。

## 《アドバイザー意見（参考）》

- 学校の学習課程に合わせて、開催時期を合わせてもらえるのはありがたい。幼小中ごとにプログラムも用意されているのもありがたい。時々、またプログラムを変更してもらえるとよい。
- 回数的に子どもが理解するには少ないので、星空が見たくなるような季節ごとのプログラムをつくり、何回も見せるべき。学校向けとは別に、子どもや親を集めるプラネタリウム事業を展開していると思うが、もっと周知活動をするべき。
- 学校への出前講座（星を見る会）などつながるとよい。